



# ほけんだより特別号



6月2日からプール開きになります。幼児はプール、乳児は水遊びですが、発熱があったり、体調不良時には、プール・水遊びは出来ません。園でも職員体制や暑さ指数を考慮した上で、安全に行いたいと思います。また、他にもプール・水遊びは避けた方が良い場合がございます。以下に注意点をあげましたので目安にしてください。

- 水いぼ** . . . 基本的に自覚症状がなければ、治療の必要はありませんが、自然治癒でも個人差があり、短くて半年から長くて2年ぐらいかかることもあります。稀にかゆくてかきこわしてしまうと、とびひになってしまったり、大きいイボが数か所であれば、(当園囑託医は)皮膚科受診をおすすめしています。  
また肌どうしが直接触れたりすると、うつることがあります。そこで長袖を着るなど患部を覆えばプールもはいれます。
- 滲出性中耳炎** . . . 定期的に耳鼻科を受診し、相談をして下さい。症状が安定していればプールも可能なことが多いですが、発熱や耳の痛みを訴える場合、プール・水遊びはできません。
- アレルギー性結膜炎** . . . 症状が落ち着いていれば、プールは入れます。プール・水遊びが終わったら、よく目を洗浄しましょう。
- 頭ジラミの寄生** . . . 頭ジラミは頭の毛にだけ寄生します。シラミは水の中を泳いだりしませんので、水の中では寄生しませんが、行動範囲は1分間に20センチ移動し、髪の毛の接触、帽子の貸し借り、タオルの共有などで感染しますので、早急に市販のシャンプーで駆除するようにして下さい。  
※当園では、シャワー浴にて対応させていただきます。
- 手足口病** . . . 症状が軽快してからも(1か月くらいは)便・だ液からもウイルスが排せつされます。ただ、一般的には症状が軽いことが多く、プールでの感染よりも、日常生活で感染する機会のほうがずっと多いです。本人が元気で登園できる場合でも、**発疹跡が乾いていない場合は、プール・水遊びは避けましょう。**
- ヘルパンギーナ** . . . 回復してからも約1か月は便やだ液からウイルスが排せつされますが、発熱、のどの痛みがなくなり、食欲が戻って登園できるなら、プール・水遊びも出来ます。
- 咽頭結膜炎(プール熱)** . 感染すると登園停止になり、登園には医師の意見書が必要です。伝染性が強いのですが、水質管理がしっかりしていれば感染しにくいです。タオルの共有でもうつることがありますので注意しましょう。
- 流行性角結膜炎** . . . 感染すると登園停止。登園には医師の意見書が必要です。伝染性が強いですが、塩素による水質管理をしていれば、プールの水で感染する可能性は低いです。タオルの共有でうつることがありますので注意しましょう。
- とびひ(伝染性膿痂疹)** . 皮膚に細かい傷がある時、黄色ブドウ球菌・連鎖球菌などの菌がついて傷口に繁殖し、ジュクジュクと汁のある、かゆみの強い水泡ができます。とびひは名前のおり、あつと言う間に全身に「飛び火」してしまいます。「おかしいな?」と思ったら、早めに皮膚科を受診し治療して下さい。水泡が乾いていない場合は、ガーゼなどで覆って下さい。顔や眼の周りなど、覆いきれない場合は、ご自宅でようすを見て下さい。プール・水遊びは避けましょう。
- 副鼻腔炎** . . . 鼻の奥の痛みや黄色い鼻水が出ている間は、プール・水遊びは避けたほうがよいです。